

カタール衛星 television 局アルジャジーラ単独インタビュー  
(2004年1月 カタール於)

2004年1月5日にカタール国衛星テレビ局アルジャジーラへ訪問し、広報部長のジハード・アリ・ボールアウト(Jihad Ali Ballout)氏に、オサマ・ビン・ラディンのビデオテープのこと、イラクの現状と自衛隊のイラク派遣についてインタビューしました。ちょうどイラクへ自衛隊が派遣された時期でもあり、今までに日本人の女性が単独でインタビューしたことはないということで、快くインタビューに応じてくれました。インタビューは英語で行われ、40分程度でした(注:この日本語は英語のインタビューを抜粋し訳したものです。英語の表現で、「自衛隊」が、「軍隊」となっているので、本分でもそのまま「軍隊」という表現を使っています。軍服を着用して武器を持っていれば軍隊と同じだということで、そうになってしまいました)。



(Q) アルジャジーラは、オサマ・ビン・ラディンがビデオテープをもって来るほど、彼から信頼があるようですね。いったいどのようにしてオサマ・ビン・ラディンから信頼を得たのですか、またどのようにしてビデオテープを入手するのですか。

(A) 我々がどのようにオサマ・ビン・ラディンからテープを入手するかは言えません。我々はオサマ・ビン・ラディンと直接接触したり、直接関係があるわけではありません。誰もが同じように、オサマ・ビン・ラディンも発信したいメッセージがあります。アルジャジーラの信頼性の元、彼はアラブやイスラムの聴衆者にメッセージを送るため、我々を利用しています。英国首相のトニー・ブレア氏も、中東政策を中東の人達に伝えるために、アルジャジーラを選びました。日本の小泉首相も、軍隊をイラクに派遣する政策をアラブ諸国に伝えるために、アルジャジーラを選びました。世界の指導者や世界に名が知られている人達は、アラブ世界にメッセージを伝えることのできるアルジャジーラの強さを知っています。繰り返しますが、我々はオサマ・ビン・ラディンと直接関係はありません。彼がいつビデオテープを送ってくるかわかりません。思い出していただくとわかると思いますが、元サダム・フセイン大統領もイラクの抵抗勢力もアルジャジーラにビデオテープを送っていました。

(Q) 数日前、宿泊先にホテルで小泉首相のインタビューをアルジャジーラのチャンネルで見ました。インタビューの反響はどうですか。

(A) まだ何も言えないところです。アラブ諸国は、なぜ日本が過去44年間、躊躇して派遣しなかった軍隊を今回初めてイラクに派遣することを決定したのか疑問に思っています。アメリカの圧力だとか、より大きな国際貢献のためだとか、日本の国益(例:石油)のためだとか、いろいろと言われています。軍隊派遣は米軍を支援するためのジェスチャーではなく、イラクを安定させ復興させることが目的であるという明確なメッセージを伝

えることができたなら、アルジャジーラのテレビインタビューは成功したと言えるでしょう。

(Q) 日本政府が自衛隊を派遣することを決定しましたが、アラブ諸国の人達はどのように思っていますか。

(A) アラブ人は、日本の軍隊がイラクでどのような活動をするのか、しばらく様子を見ようと思っている。アラブ人は、日本のイラクでの活動やその成果を見て日本を評価するだろう。それは主にイラクの治安が安定するかどうか、また一都市であってもそこでイラクの復興が早急に実現されるかどうかである。アラブ人は早い段階で評価を下すと思う。もし治安の悪化が続き、日本が米軍と密接に活動することがあれば、日本に対するアラブ人の評価は、日本が期待するものとは大きくかけ離れてしまう。アラブ人はイラクの復興に貢献したいと願う日本に対し、そのチャンスを与えているのだ。日本とアラブ諸国には良好な関係が存在しているので、始めはよき計らいをしておいて、その後に様子を見て判断するのだろう。

しかし、アラブ人にはまだ疑問が残っている。それは、なぜ日本が、この時期にそしてイラクに、戦後初めてという軍隊派遣を思い切って決断したかということだ。アラブ人は、日本は45年ほどの間、軍隊を海外に派遣したことがないことを知っている。軍隊の派遣は危険を伴うので、なぜ日本が今になってその危険を犯すことを決めたのか理解できない。「アメリカから圧力をかけられている」とか、「国際平和のため」とか、「イラクやその周辺地域に自国の利害があるから」とか、「ビジネスの利害関係がある」とかいろいろと理由はあるようだが、日本がなぜイラクに軍隊を派遣するのか、その理由をはっきりさせる必要がある。また復興は日本が独自で計画して行うのか、それとも他のアラブの国と協力するのか、今必要とされている電力や病院の復旧活動もするのか、もし治安が悪化すれば撤退するのか、抗戦するのか、それもはっきりわからない。日本がイラク人にとって何か良いことをしてくれるなら、それを見せて欲しいとアラブ人は言っている。

(Q) イラクでどのような活動をすれば、日本の自衛隊はアラブの人達に支持され理解されれると思いますか。

(A) これは難しい質問である。なぜならイラク人は、イラク国内に外国の軍隊が存在すること自体、断固として反対しているからだ。だから結果がどうであれ、外国軍の存在自体が彼らを完全に満足させることにならないだろう。しかしイラク人は国の再建と復興を願っているのだから、日本がイラクの復興に貢献していることが、日々の生活の中で実感してわかるようになれば、イラク人は日本を理解してくれるかもしれない。すべては日本の活動如何による。しかしイラクにとって、いやアラブ全体にとって最も重要なことは、日本が米軍と密接に活動しないで、どれだけ主体的に活動できるかである。

(Q) ということはもし日本の自衛隊が米軍と密接に行動するならば、日本はアラブ諸国から批判されるということですか。もしそうならば、日本とアラブとの友好関係はどのようになると思いますか。

(A) 日本とアラブとの関係は長年にわたり良好な関係にある。だから国家レベルで関係が悪化するとは思えない。しかし国家レベルで友好的な関係が保てても、国民レベルで保てるとは限らない。国民レベルでどのような関係になっていくかは、今後の様子を見なくてはわからない。

(Q) イラク人は日本に対し、軍隊ではなく民間人を派遣することを望んでいるようです。軍服を着ていれば、たとえ素晴らしい活動をしていても攻撃の対称となる可能性があり、民間人だと攻撃されないのが安全だとイラク人から聞きました。本当に民間人なら安全だと言えるのでしょうか。

(A) 100%安全だとは言いきれないだろう。イラクにはイラクの安定を望まない抵抗勢力

が存在している。イラクの状況は複雑だ。イラクを不安定にさせようとする勢力が、イラク人の中に5%ほどいる。彼らは必要と判断すれば民間人を攻撃するだろう。彼らは攻撃の仕方を知っているし、実行することは十分に可能だ。もし日本の軍隊が継続して活動する場合、米軍の指揮下で活動するのではなく、イラク人のために主体的に活動すれば、アラブ人の日本に対する考え方は変わってくるかもしれない。

最後に、日本は勇気ある決断をしたと思います。日本が大いにイラクとアラブ諸国の発展のために貢献してくれることを望みます。同時に日本の軍隊が政治にかかわったり、米軍と密接に行動したり、治安活動に直接関与されないことを望みます。

### 私のコメント

自衛隊がイラクに派遣されてから半年以上たちますが、サマワにおける自衛隊の活動はだんだんと評価されつつあります。しかしその一方、サマワではまだ水道や電気が完全に復旧されてなく、サマワの人達は未だ日々の生活に困っています。イラクが日本に何を望み、それに対し日本は何ができるかを知ることが、今後ますます重要になってきます。イラクは日本に対し、最先端の科学技術を惜しみなく使って、インフラを整備したり、教育や医療施設を復旧したり、自分達の生活を少しでも楽にして欲しいと願っています。科学技術を最大限に活かしその期待に十分に答えることが、科学技術立国日本の果たすべき真の国際貢献の姿だと思います。

